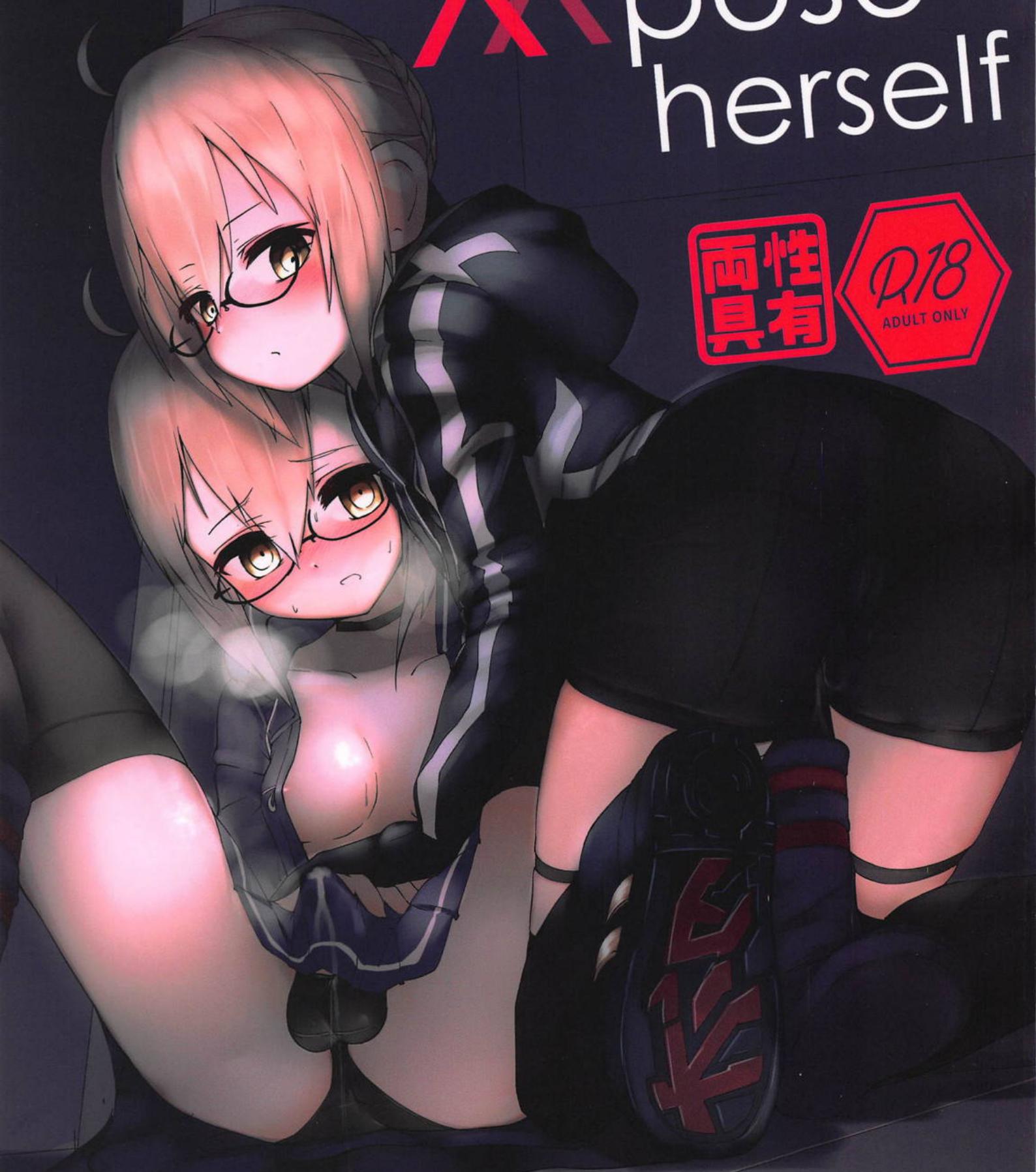


eXXpose+
herself

両性
具有

R18
ADULT ONLY



どうも「んばんはー

公然と
自慰行為に及んでいます。

マスターさんには
秘密で……

今、私はあらうことかこの
マイホームことカルデアで…

ですが今回はもう

この行為は“私”だけの
秘密ではなく……

“私も一緒に
この空間で

ドキ



二人で露出行為を
働いています。

ドキ

とうとう

いえ、むじるだからこそ
いやらしくよだれを垂れ流して。

誰に見られるとも
知れないのに：

“私”だけでもぐ…

きつかけはつい先ほど

私は秘密で
自分だけで
こんなことをして

この写真

マスターさんに渡すはずの
露出写真(和菓子と交換)を

前からおかしいとは
思っていましたが…

こういうことだつたんですね。

うつかりもう一人の『私』に
送ってしまい…

快樂に
浸つていたとは…

ほんとうに
でした。

おの
和菓子は

正直何を
言つていたのかは

快楽に浸るのは
構いませんが：

よくわかりません。クラス的に：

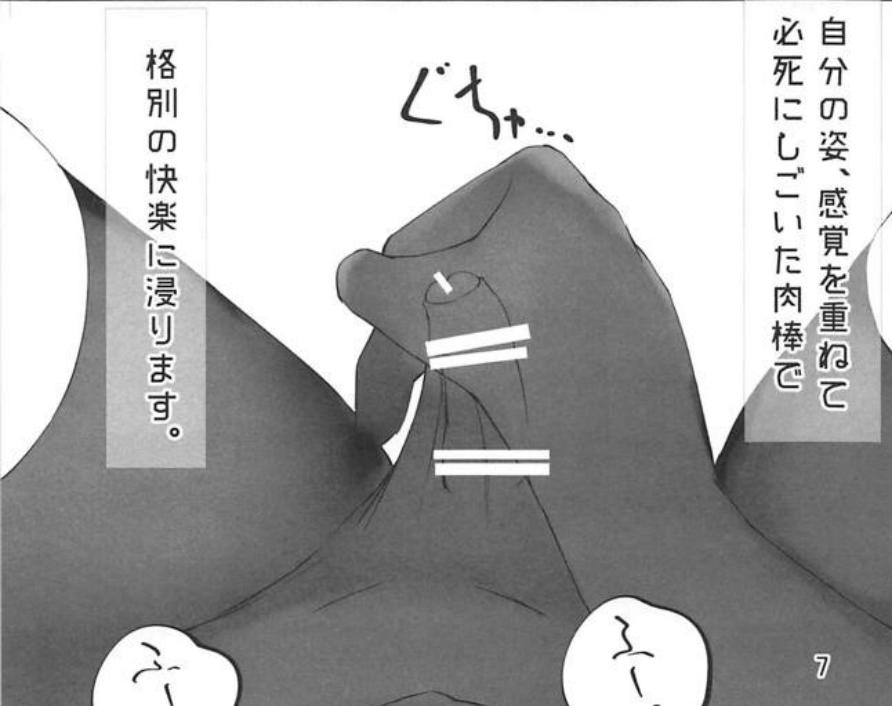
「私に
秘密にするのは…
いただ

でも
押し付ける、それは
何よりも雄弁で

自分もしたい、ということは
よく伝わってきました。

こうじて外に出た私たちは――

目の前の自分を見ながら
自慰行為に耽り…



私が「私」を見て快楽に浸れば
向こうの「私は当然——

他の誰かにも
見られるかも、という
意識は強くなつて

考えただけで私のそれは
直に触れるまでなく

「こんな皮被りで小さい
情けないちん〇んを晒して悦ぶ
みつどもない変態」などと思われるのでは、

むしる見られたら、という
想像が止まらなくなります。

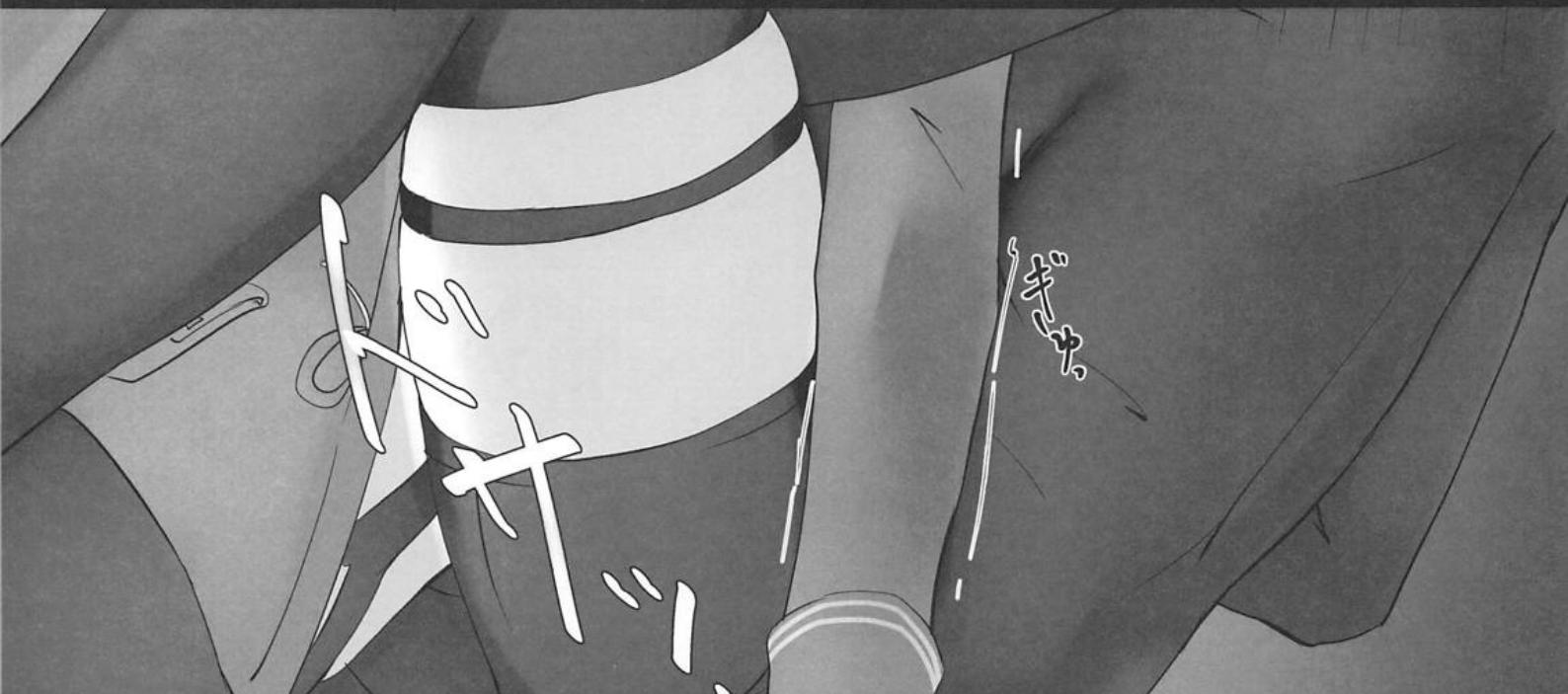


それを望むように
さらによだれを吐き——

氣配と足音。
誰かが来ている、ということは……



このまま廊下で
行為を続けるわけには——



完全に抑え込まれた、と
気づいた頃にはもう遅く…

我慢できずにち○ちんまで
握ってしまいます……

かといって、
本当に見つかるわけ
にもいかず

肉棒を握られ
逃げることもできません。

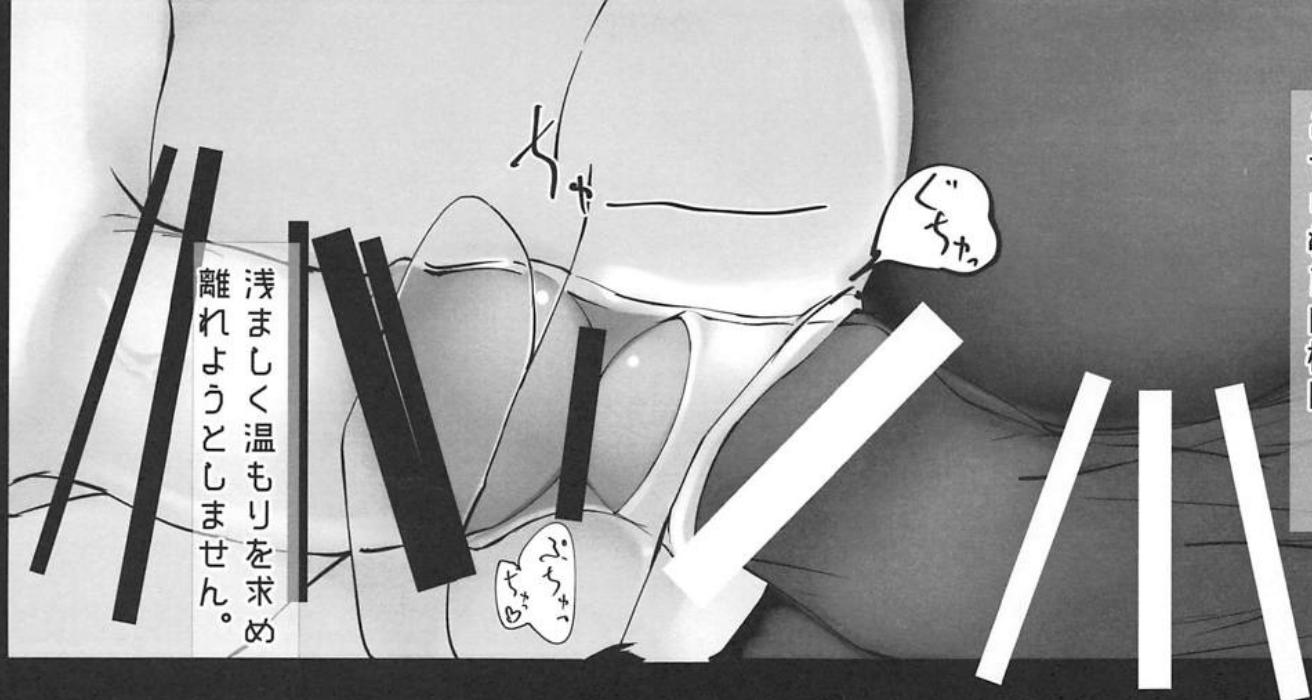
わざとらしく
息を吐きかけてきます。

でも向こうの私は
もうどうにでもなれとばかりに

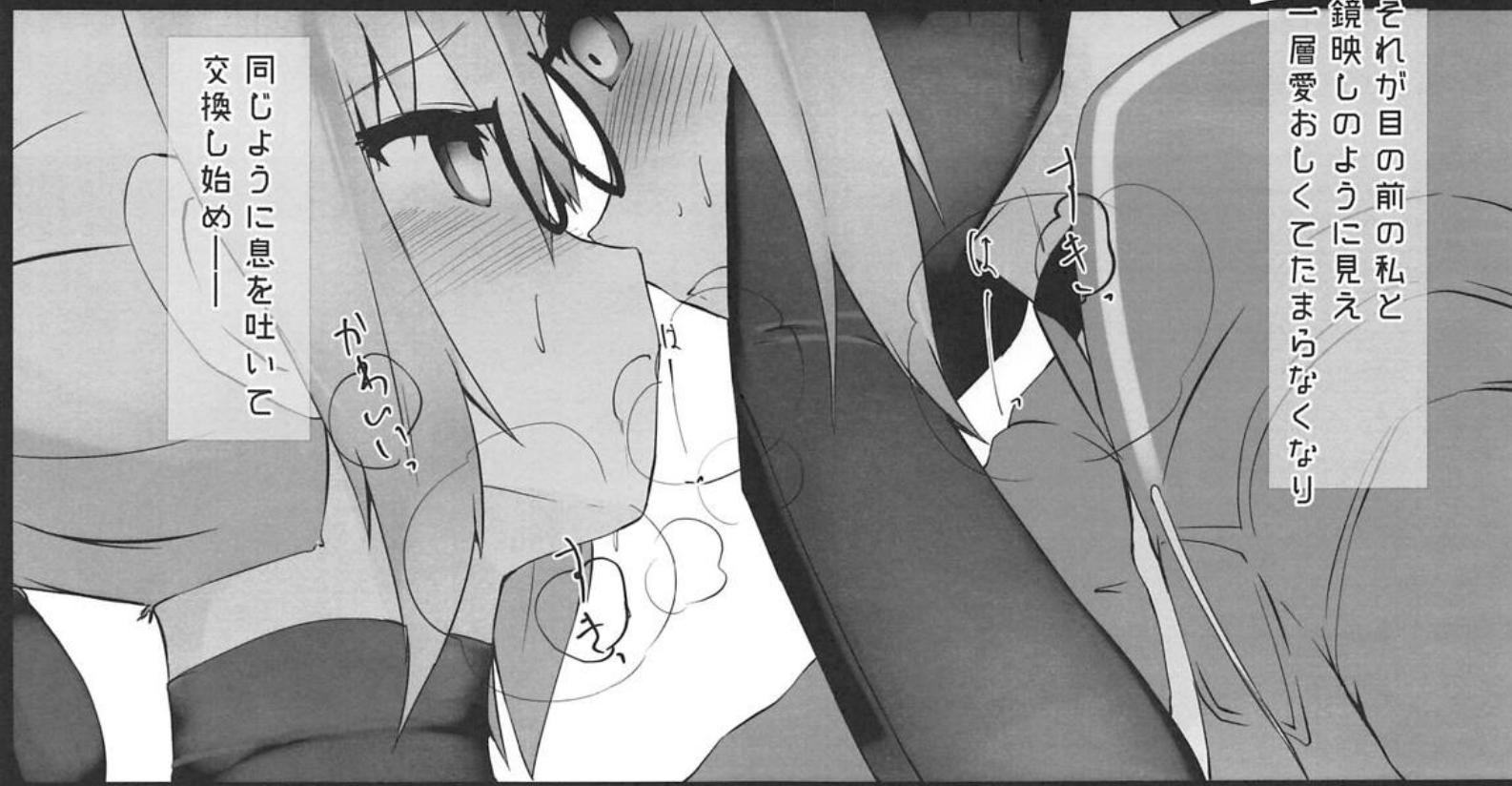
わけもわからず
息を漏らすことしかできず、

せめて声を殺そうとしますが：

離れようにも
更に同時に皮の中でキス
させられた肉棒は

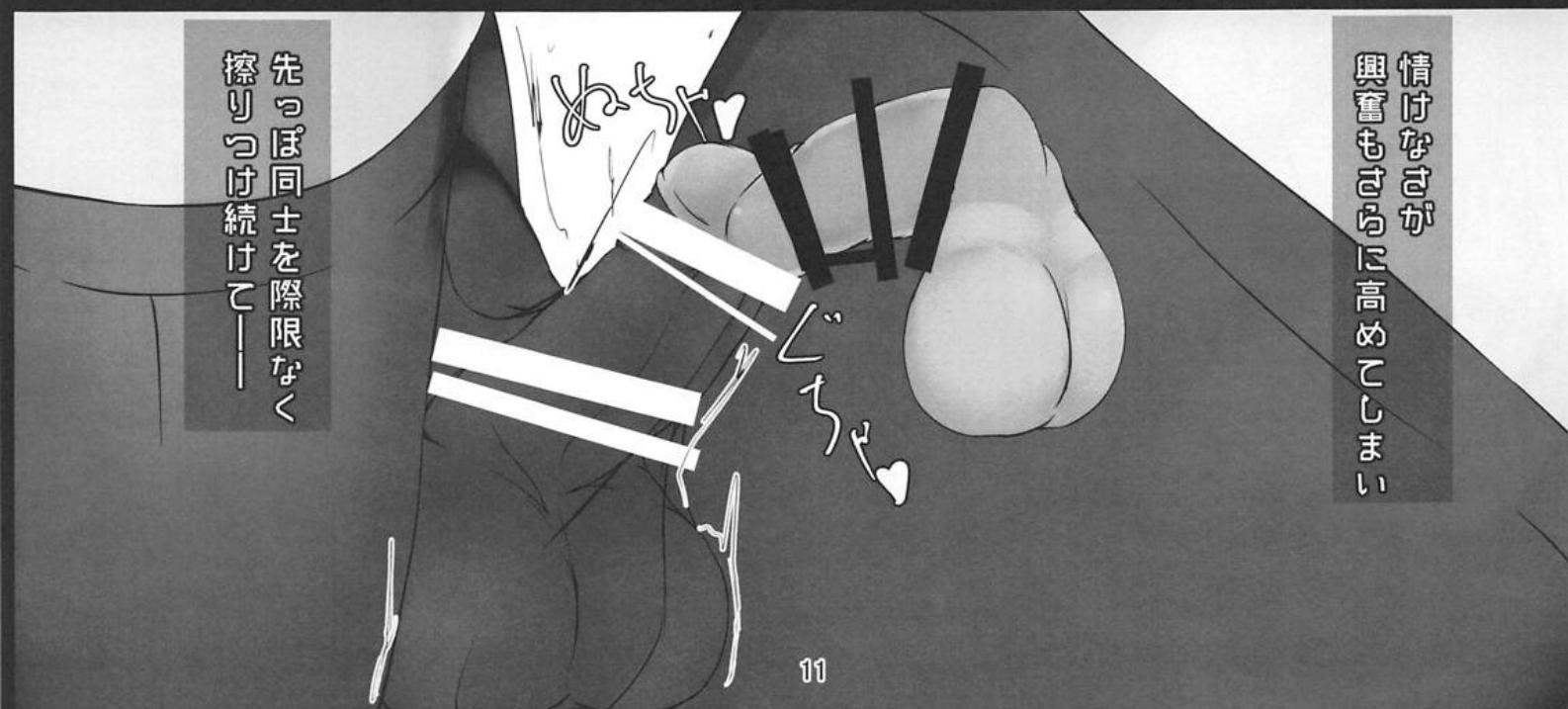


それが目の前の私と
鏡映しのように見え
一層愛おしくてたまらなくなり



情けなさが
興奮もさらに高めてしまい

先っぽ同士を際限なく
擦りつけ続けてーー





そして差し出された手に
「びりついた『それ』を



あるうごどか
精液まみれになつた手を
突き付けて

そして処理に困つた私は

自分をテイツンユ代わりにじらしまります。



はしたなく吸いついて
甘味を貪ります。



その甘味と惚けた顔で
昂つてしまつた私は

最低です…が、なぜだか
ひどく興奮してしまつ——

私は物欲しそうに
掴み取ると



今度は自分を押し倒すと

その顔に直接擦りつけ
自慰行為：

通り過ぎてすぐとはいえ
戻ってくれば確実に
見られてしまいます。



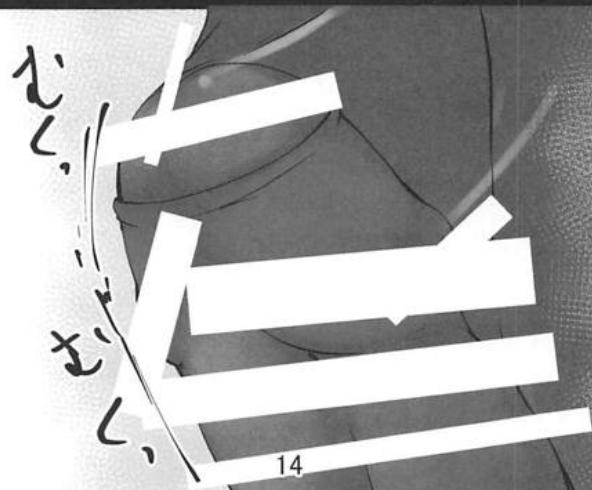
それでも腰は既に
惚けきった自分の顔に
押し付けることに
夢中で

止められそうに
ありません。



私の膨らみはますます
興奮してしまいます

自分の顔にマーキング
するような倒錯的行為に





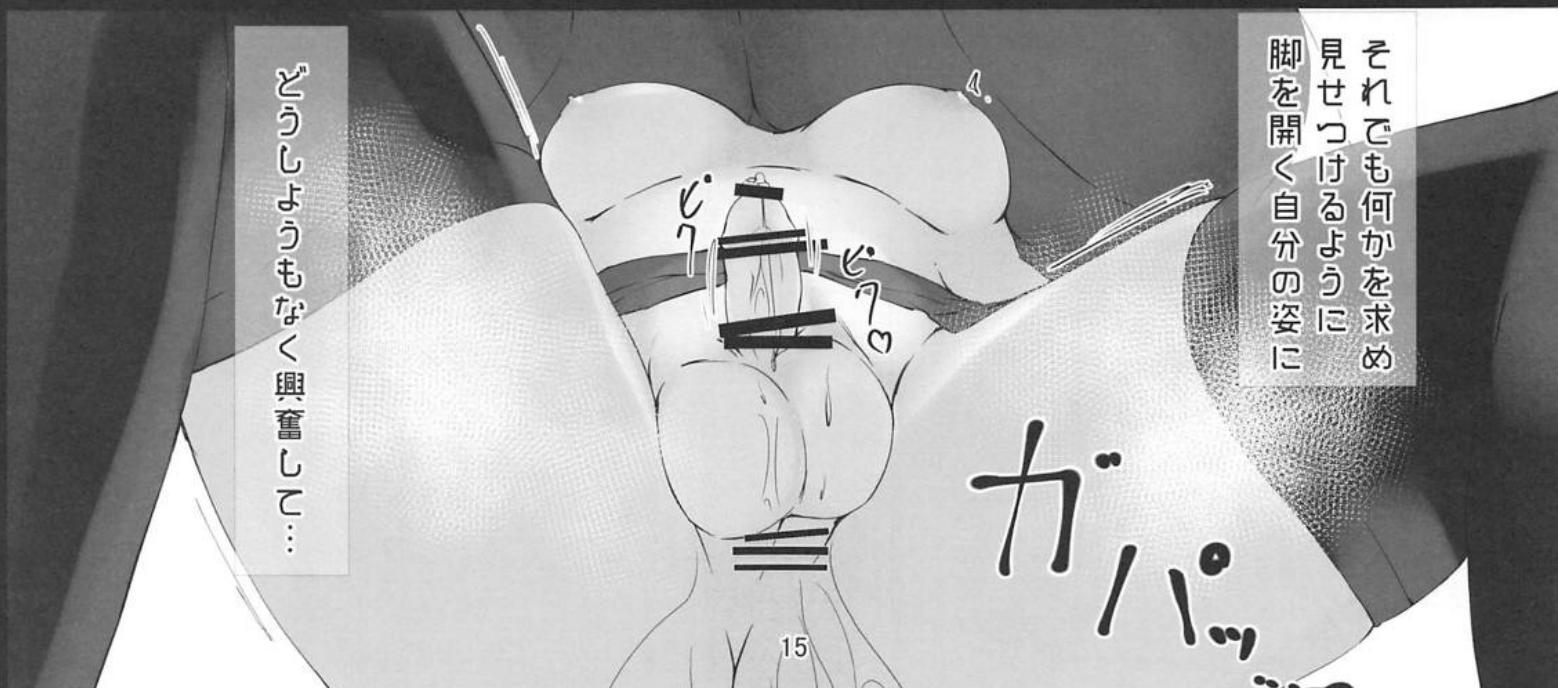
しかし興奮は収まらず、
圧迫感で朦朧とした顔や

早くも軽い絶頂を
迎えています。



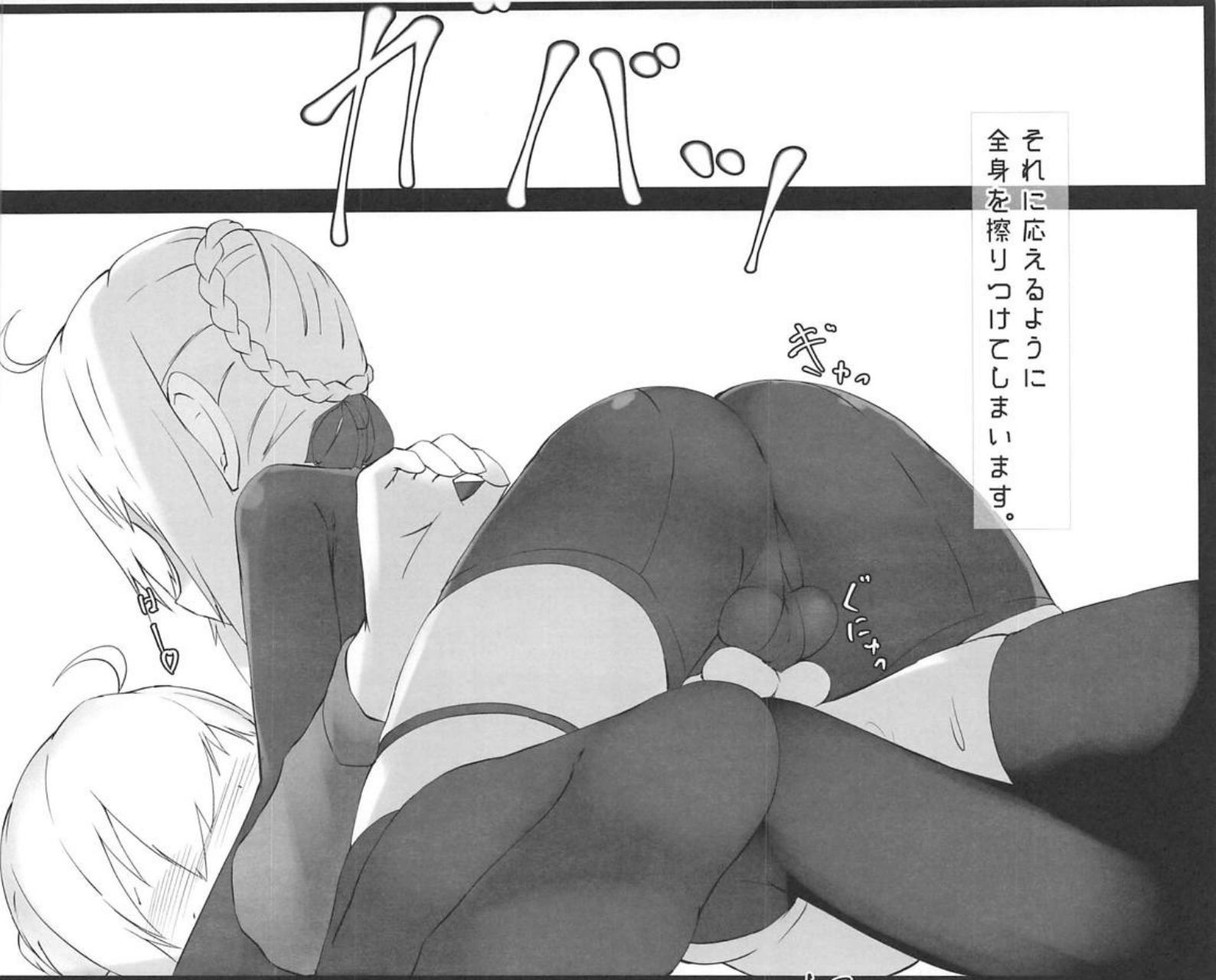
それでも何かを求め
見せつけるように
脚を開く自分の姿に

どうしようもなく興奮して…



振り向かれたら確実に見つかる距離に

それに応えるように
全身を擦りつけてしまします。



そのまま自分を
圧し潰しながら

白い液体を吐き出して
倒錯に浸り続け……

この場は本当に見つかる前に
5秒で逃げますが――

次はどうじまじょうか…
♥

ただ快樂に繰り
子種を漏らし続けていました…。

潰された私は
朦朧とした意識の中

eXXpose herself +

毬藻塾
Marimo juku

2018年12月31日発行
mohumohu810@gmail.com
n.f.t.
twitter:@Gini_University Pixiv:nft
印刷：株式会社栄光

C95
あまけ

3.よりセルフ000

セイバー・リリィ
chang...

迷藻塾 @Gini_University



マリモジユク

